

新型コロナウイルス感染症拡大にあたって



この度、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を鑑み、連盟総会は延期、第93回会員研修会・第32回機能訓練指導員実務研修会(第15回機能訓練フォローアップ講習会)は、参加者及び関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果「中止」することとしメールにて一斉配信いたしました。

令和3年3月7日(日)に同内容で令和2年度の行事として開催させていただきます。連盟総会は、5月24日(日)の定時総会時に開催致します。

次に、4月12日(日)開催の第29回少年少女柔道大会は、6月7日(日)開催の第41回愛知県柔道整復師会柔道大会・第9回少年柔道形競技会・第13回愛知県柔道整復専門学校柔道大会と同日開催とします。

このため、出場選手の人数を各団体4年生・5年生・6年生の男女各々2名を上限として選出していただき大会を実行します。

これに伴い、3月17日(火)開催予定の審判講習会も延期させていただきます。審判講習会につきましては、日程が決まり次第関係者に連絡させていただきます。

会員各位におかれましては何卒御理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。時節柄くれぐれもご自愛いただき、手洗い・うがい・検温等を励行していただきますようお願いいたします。

機能訓練豆知識「フレイル」とは？

(1) フレイルとは

フレイルとは、加齢によって心身が弱っている状態のことをいいます。

もともとは、海外で用いられている「Frailty (フレイルティ)」という言葉で、以前はそのまま訳して「虚弱」や「老衰」などとあらわされていました。

しかし「Frailty」には、早めに適切なサポートを受ければ、もとの健康を取り戻すことができるといったポジティブな意味も込められています。そのため、日本老年医学会では2014年に新しく、これを「フレイル」と称することを決めました。

フレイルでは、運動機能や認知機能が衰え、慢性疾患で生活にも困難が生じ、やがて閉じこもりがちになります。じつは、介護を必要とする人の多くがこのようなフレイルを経験していることが分かっています。

つまりフレイルというのは、ちょうど健康と要介護の間にある段階と捉えることができます。

(2) フレイルの原因

フレイルは、加齢によるさまざまな衰えが原因となっています。たとえば、筋力や運動機能の低下、認知機能の低下、意欲や判断力の低下、などが挙げられます。

ほかにも、呼吸器疾患による呼吸困難や、心血管疾患による活動の限定も考えられます。さらに、抑うつ症状や関節炎、貧血などの慢性的に管理が必要な疾患もフレイルの原因となります。

筋力が低下すると、基礎代謝量が落ちてエネルギー消費量が少なくなります。すると、食欲も失われ、それともない体重が落ち、栄養失調にもなっていきます。この低栄養もまた、フレイルの主な原因のひとつとなります。

このように、フレイルでは、原因のひとつひとつがおたがいに影響しあい、ますます悪循環に陥る「フレイルサイクル」を形成します。

さらに、フレイルでは社会や環境の変化なども原因となりえます。たとえば、加齢によって活動範囲が狭くなり、他人とのコミュニケーションがめっきり減ってしまう。また、低収入や孤独によるストレスなども、症状を進行させるきっかけとなります。

(3) フレイルに陥るとどうなるのか

フレイルになると、体力の衰えによって、抵抗力が大きく落ちてしまいます。その影響で、外的なストレスにとっても弱くなり、感染症や怪我などのダメージからも、なかなか回復することができません。

そのため、健康な人であればすぐに治るような風邪でも悪化して肺炎を発症することがあります。

また、全体的な気だるさから転倒しやすくなり、打撲や骨折をする可能性も高まります。このような病気がきっかけで入院すると、さらにフレイルが悪化しそのまま寝たきりになってしまうケースも少なくありません。

このように、フレイルに陥ることで、病气や入院、そして死亡などのリスクは一気に高くなってしまいます。

(4) サルコペニア・ロコモティブシンドロームとの違い

フレイルとよく似た症状に、「サルコペニア」と「ロコモティブシンドローム」があります。

サルコペニアは、筋肉という意味の「sarx」と、喪失という意味の「penia」を合わせて作られた言葉で、「加齢性筋肉減弱症」、すなわち加齢からくる筋肉量低下のことをいいます。サルコペニアになると、日常生活での動作に困難をきたし、転倒や寝たきりのリスクが高まります。

一方、ロコモティブシンドロームは、「運動器不安定症」のことです。骨、関節、筋肉などに問題が生じて、運動に不自由が出る状態のことをいいます。ロコモティブシンドロームは、症状が進むと、それだけ要介護になるリスクを高めるとされています。

この2つの症状がフレイルと異なるのは、いずれもあくまで身体面だけに注目している、という点です。これに対し、フレイルは精神面や心理面、さらに社会的環境などもその原因のひとつとして考えています。

フレイルとは、加齢による身体能力低下を身体能力の問題としてのみ捉えるのではなく、加齢による影響を広く捉えようとする概念なのです。(出典 いろはにかいご HP より)

柔道整復師法の広告の制限



2月16日(日)に開催されました療養費取扱い研修会において「広告の制限について」もお話しさせていただきました。

残念ながら今なお間違った解釈が本会会員の中に見受けられます。今一度、広告の制限に関し見直していただければと思います。

柔道整復師法 (広告の制限)

第二十四条 柔道整復の業務又は施術所に関しては、何人も、文書その他いかなる方法によるを問わず、次に掲げる事項を除くほか、広告をしてはならない。

- 一 柔道整復師である旨並びにその氏名及び住所
 - 二 施術所の名称、電話番号及び所在の場所を表示する事項
 - 三 施術日又は施術時間
 - 四 その他厚生労働大臣が指定する事項
- 2 前項第一号及び第二号に掲げる事項について広告をする場合においても、その内容は、柔道整復師の技能、施術方法又は経歴に関する事項にわたってはならない。

第三十条 次の各号のいずれかに該当する者は、三十万円以下の罰金に処する。

- 五 第二十四条の規定に違反した者
(広告の制限に関する条項のみ記載)